

## 土台と上部構造

書きこみの短評

ゲ・ヴェ・プレハーノフ. 《マルクス主義の根本問題》

[65 - 66] ……《経済的構造》の性格とこの性格の変化する方向とは、人間の意志に依存するものではなく、生産力の状態に依存するのであり、生産力のいっそうの発展の結果、どのような変化が生産関係のうえにおこり、またどのような変化が社会にとって必要となるかということに依存するのである。エンゲルスはこのことを、つぎのような言葉で説明している。《人間はみずから自分の歴史をつくるものであるが、これまで歴史をつくるにあたっては、——個々の社会の内部でさえ——共通の意志や、共通の計画にしたがってつくったのではなかった。人間の志向はたがいに交錯しあってきた。だからこそすべてこういう社会では**必然性**が支配している。そしてその必然性の補足となり、外的発現形態となっているものは**偶然性**である》。人間の活動自身がここでは自由なものとしてではなく、**必然的なもの**として、すなわち**科学的研究の対象**となりうるものとして規定されている。このようにして史的唯物論は、環境が人間によって変化されるということを指摘するのをやめないと同時に、**科学の見地からこの変化の過程をながめる可能性**をはじめてわれわれにあたえるのである。だからこそ、われわれがつぎのように言うのはまったく正当なのである。歴史の唯物論的説明は、**科学として登場しようとのぞむような、人間社会にかんするあらゆる学説に必要な序論**にあたえるものである、と……

[68] ……階級分裂を知らない原始社会では、人間の生産活動はその世界観および審美心に**直接に**影響をおよぼす……

[81 - 82] ……いまでは有名な《土台》とそれにおとらず有名な《上部構造》との関係についてのマルクス—エンゲルスの見解を簡明に言いあらわそうとすれば、つぎのようなものがえられるであろう。

- 1) 生産力の状態；
- 2) 生産力によって制約される**経済関係**；
- 3) 一定の経済的《基礎》のうえに発生した社会的=**政治的**制度；
- 4) 一部は直接に経済によって規定され、一部は経済にもとづいて発生した社会的=**政治的**制度全体によって規定される、**社会的人間の心理**；
- 5) この心理の性質を反映する**さまざまなイデオロギー**……

……………

注)……は本文中の表記、……………は青山の略

第38巻『ゲ・ヴェ・プレハーノフ. 《マルクス主義の根本問題》』P373～374

はやくとも1908年5月に執筆